

特別委員会

水害対策調査特別委員会

4月22日開催

〔委員間協議〕 内水氾濫を調査のテーマとし、佐賀市

排水対策基本計画を基に検討を行うこととした。

5月20日開催

〔現地視察〕 市南部の5カ所の水門や樋門の現地視察を行い、現状を確認した。

6月20日開催

〔説明〕 平成26年3月に策定した佐賀市排水対策基本計画は、短期対策がおおむね完了したため、令和2年6月に中期対策を再構築して、本計画の改定を行った。

本計画の目標は、想定浸水面積を計画策定時の約50%まで減少させることであり、計画期間は当初計画策定から30年間である。排水対策は、施設整備が主体のハード対策と、ハザードマップなどのソフト対策で構成している。この事業管理はおおむね5年としているが、新たに課題が見つかった場合はその都度チェックをして、改善を図る。なお、排水対策基本計画の中期対策と国県の事業と併せて、令和10年度までを期間としている。

〔質問〕 中期対策と長期対策を合わせた概算事業費の230億円の内訳はどうなっているか。

〔答弁〕 内訳は、中期対策が、雨水を流す対策86億円、雨水を溜める対策9億円、施設の新設・改良15億円の合計110億円。長期対策が、雨水を流す対策58億円、雨水を溜める対策31億円、施設の新設・改良31億円の合計120億円である。

〔質問〕 市の中期対策が、国土交通省の100mm/h安心プランに登録されているが、どのような影響があるのか。

〔答弁〕 このプランに登録されたことで、国の予算の重点配分が受入れられるため、事業が確実に実施できると考えている。

〔質問〕 本計画の目標は、10年に1度の頻度で発生する豪雨への対策で、時間雨量64mmとしているが、令和元年や令和3年の豪雨は、時間雨量は64mmをはるかに超えてい



本庄江防潮水門視察の様子

た。現在、64mmという数値はもう頻繁に発生していると考えますが、この数字のまま続けて行くのか。

〔答弁〕 最近、時間雨量100mmを超えるような雨が頻繁に起こっている。その中で田んぼダムやお濠の事前排水などを取り入れながら、できるだけ対応していきたい。計画では時間雨量64mmとしているが、これを確実に進めることで、浸水軽減対策につながると考えている。

〔質問〕 田んぼダムについて動きや情報は何かあるのか。

〔答弁〕 田んぼダムについては、先日、各農家に堰板の配布が終わり、その配置を行っていた。効果の検証はまだ行っていない。

〔質問〕 事前排水を行ったお濠には、どれだけの水を溜めることができるのか。

〔回答〕 お濠には通常3万7千m³溜まっている。事前排水により、追加で1万7千m³を溜めることができる。

8月12日開催

〔委員間協議〕 今後の調査の方向性について「雨水を流す」「雨水を溜める」「施設の新設・改良」の項目の中から現地調査と委員間協議を行うと決定した。